

おすすめ観光スポット



リーガ





01 — リーガ城

📍 Pils iela 1/3

1201年にダウガワ川岸に新しい都市リーガが建都されました。それから100年余り後、ドイツ騎士団の分団であるリヴォニア騎士団が、この地に居を構え始めます。何世紀の間、リーガ城は様々な戦乱や戦争により、何度も破壊されましたが、その度に再建されてきました。1922年以来、ここはラトビア大統領官邸となっています。ただし、ソ連占領の50年間は、ピオネール宮殿がその敷地内に置かれていました。城のお客様を歓迎しているのは、ダウガワス・ガーテ通り (Daugavas gāte) に面する入口を持つラトビア国立歴史博物館です。天守閣の聖霊塔の上には、ラトビア共和国の国旗が常に掲げられており、大統領が国内にいる場合は大統領旗も共に掲げられています。



02 — 三兄弟の家

📍 Mazā Pils iela 17, 19, 21

歴史的な「三兄弟の家」は、タリン旧市街倉庫群の「三姉妹の家」とよく似ていることから、こう呼ばれます。これはリーガで最も古い集合住宅です。各棟はそれぞれ異なる世紀に建設されました。ゴシック様式の壁龕（ニッチ）と階段状切妻が特徴的な、「長男」と呼ばれる最も古い棟は、1490年頃に建設されました。三兄弟の家は現在、ラトビア建築博物館となっており、内部の展示室を見学することができます。



03 — 大聖堂広場

この広場は、1930年代に古い街区がいくつか取り壊された際に、建物が密集していた旧市街の中にできました。広場に面するのは、1211年頃に建設が始まった印象的なリーガ大聖堂です。ロマネスク、ゴシックやバロック、そしてアール・ヌーヴォー様式が折衷し、何世紀もかけて現在の姿になった大聖堂は、1884年に建設されたパイプオルガンで有名です。このパイプオルガンは、後期ロマン派におけるパイプオルガン建造の最高傑作であり、ヨーロッパのどこで探してもこれに匹敵するものを見つけるのは難しいでしょう。この壮大な楽器は、4段の手鍵盤、124の声区（ストップ）、大小6718本の木管と金管のパイプを備えています。そして、世界の一流音楽家たちが、この大聖堂でパイプオルガン演奏会を開催しているのです。



04 — リーガ証券取引所美術館

📍 Doma laukums 6

リーガ証券取引所美術館は、豪華かつ歴史的な内装と上質な古典芸術作品とが調和し、独特な雰囲気醸し出しています。建物自体は19世紀半ばに、富と豊かさを象徴するヴェネツィア・ルネサンス期のパラッツォ建築様式を模倣して建設されました。この美術館には、古代美術の間、エジプトの間、欧・亜美術ギャラリー、銀の間、ニコライ・リョーリフ絵画ギャラリーという6つの常設展示があります。また、現在では国際的な展示企画や文化・芸術行事を定期的で開催しており、教育プログラムや創造的なワークショップなどを実施しています。



05 — リーガ歴史航海博物館 📍 Palasta iela 4

起源が1773年まで遡るラトビア最古の公立博物館であり、ヨーロッパでも最も古いものの一つです。この博物館は、13世紀から20世紀にかけて建設されたリーガ大聖堂の教会と、ゴシック様式の肋骨穹窿（リブ・ヴォールト）の回廊、そして博物館からなる建物群の一部です。博物館の中でも特筆すべきは、かつての修道院の跡地に建てられた、18世紀の古典主義様式の列柱の広間です。館内の16の展示室では、800年以上にわたるリーガ市の物語をたどり、航海の歴史と伝統について学ぶことができます。



06 — 火薬塔 📍 Smilšu iela 20

この塔の歴史は1330年に遡ります。かつてリーガの城壁を形成していた28の塔のうち、唯一保存されている塔です。現在の火薬塔という名の由来としては、16世紀に火薬が貯蔵されていたという説や、11門の大砲が同時に発射されたときの耐え難い火薬の煙からという説があります。1919年以来、ラトビア戦争博物館がこの塔の中に設置されています。1937年にはさらに建物が増築され、現在、展示の大部分が増築部分で行われています。



07 — 自由記念碑

ラトビアの独立と、自由、そして国民の団結を象徴する自由記念碑は、1935年11月18日に除幕されました。この記念碑は国民からの寄付によって建てられています。初独立時代のラトビア国民の反応は著しく、合計で約300万ラツツが寄付されました。この記念碑は、ラトビア独立戦争で散華された兵士たちに捧げられたものであり、13の彫刻と浅浮雕は、ラトビアの歴史と文化の象徴を描いています。



08 — リーヴ広場

リーヴ広場は第二次世界大戦後、8つの通りが合流する場所に作られました。メイスタル通りにある18世紀に建てられた興味深い集合住宅は、17世紀にその重要性を失ったリーガの旧防壁の隣に位置しています。広場の隣には、19世紀後半に建てられた豪華なチューダー様式の大ギルド（商人会館）と、小ギルド（職人会館）、そしてロシア国外では最古のロシア人演劇劇場であるミハイル・チェーホフ・リーガ市ロシア人劇場があります。広場の中央には花壇と石畳が波状に作られており、これは18世紀までここを流れていたリーヴェネ川を象徴しています。リーガという市名は、リーヴェネ川の名前に由来しています。



09 — 市庁舎広場

市庁舎広場は、何世紀にもわたってリーガの代表的な交易の場でした。第二次世界大戦中、この広場と歴史的建造物は破壊されましたが、現在までにその多くは完全に修復されています。中心的建物である市庁舎は2003年に再建され、現在はリーガ市役所・市議会が置かれています。広場の中央には、15世紀末からの木像が1897年に石像に取り換えられた、正義と街の独立を象徴するローラント像が鎮座しています。ダウガワ川に近い側面で、1993年に設立され、2022年に更新されたラトビア占領博物館は、1940年から1991年までの間に、さまざまな勢力に占領され続けたラトビアの国家と、国民、そして国土の物語を伝えています。



10 — 黒頭館

📍 Rātslaukums 7

黒頭館(Melngalvju nams)は、1334年にリーガのさまざまな公共組合の集会所として建設されました。この建物は当時、市内で最も豪華かつ格式の高い建物でした。15世紀末には、未婚の若い商人と、金細工師、そして船頭の集まりである黒頭兄弟団がこの建物の借主となります。この建物は第二次世界大戦中に破壊されてしまいました。その後、1999年に再建され、かつての壮麗さを取り戻しています。今日、この建物を訪れれば、素晴らしい正面建築、新しく建てられた広間、晩餐会場、そして当時のまま保存されている地下室など、何世紀にもわたる歴史の旅を楽しむことができます。



11 — 聖ペテロ教会

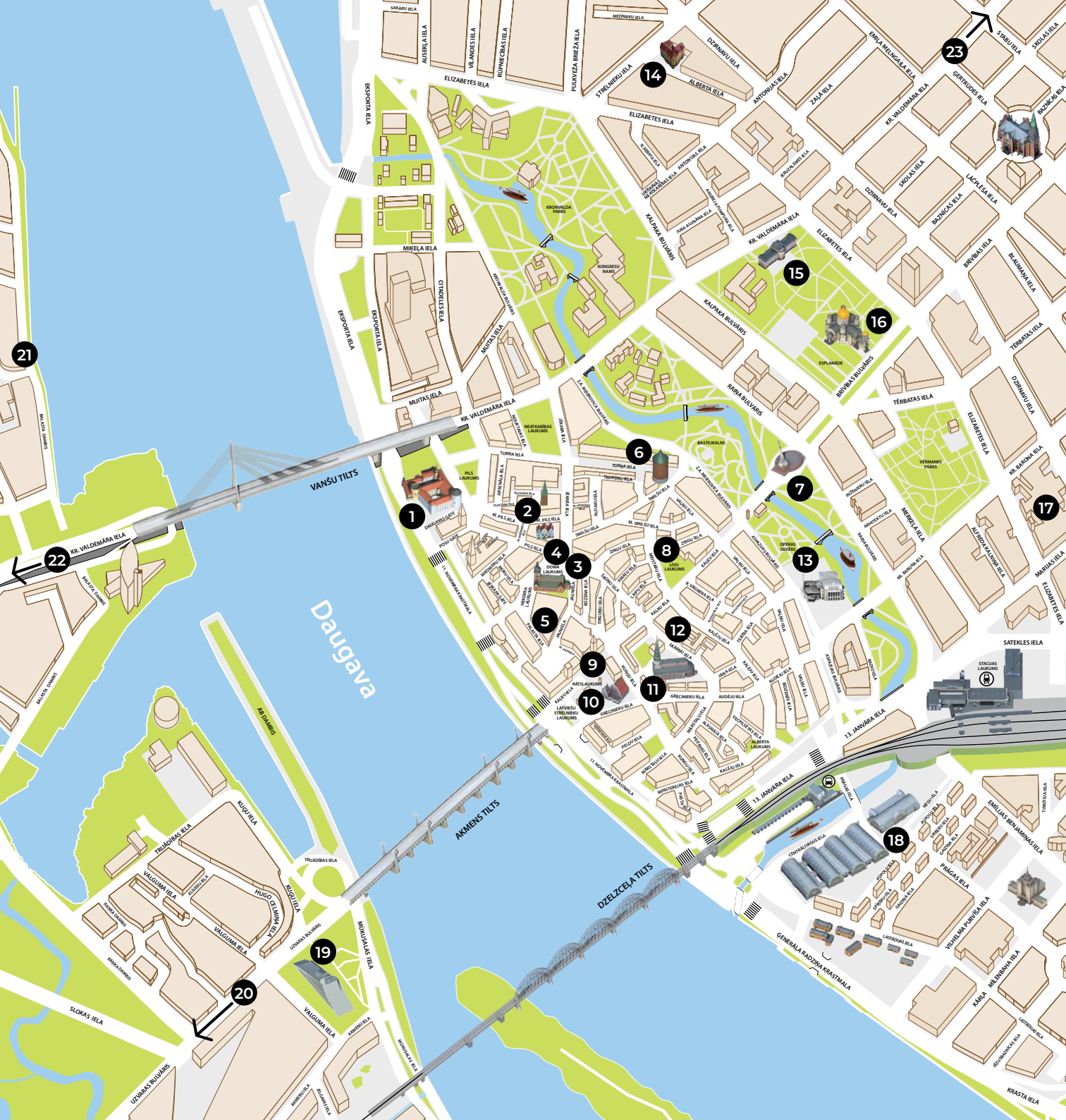
📍 Reformācijas laukums 1

聖ペテロ教会が初めて文献に登場するのは1209年のことです。15世紀、教会は大幅に拡張され、独特のゴシック様式の外観になりました。リーガの象徴の一つ、バロック様式の尖塔は、何世紀にもわたって特に落雷の被害を、幾度となく、なんと6回も受けてきました。この尖塔は、第二次世界大戦まではヨーロッパで最も高い木造の塔でした。第二次世界大戦中に教会が全焼したため、現在の塔は、再建されたものであり、1973年に最後の改築工事が完了すると、エレベーターが設置されました。このエレベーターに乗ると全方向展望台に行くことができ、そこからは旧市街の赤い屋根群とダウガワ川の美しい眺めが楽しめます。



12 — 修道院中庭

修道院中庭は街の最も古い地区にあります。当初は、帯剣騎士団の居城がこの地にありました。この城は13世紀に建てられましたが、同世紀末に壊されています。修道院中庭の名前は、14世紀にここに定住した聖霊修道会に由来します。現在、修道院中庭にはリーガ磁器博物館があり、そこではリーガの磁器生産の歴史を学ぶことができます。スカールニュ通り (Skārņu iela) 側の工芸デザイン美術館では、ラトビアを代表する工芸とデザインの作品が展示されています。





13 — ラトビア国立歌劇場

Aspazijas
bulvāris 3

ラトビアが誇る音楽と文化の殿堂、ラトビア国立歌劇場は市運河のほとりにあります。元々は、1863年にリーガ市ドイツ人劇場として建てられました。この印象的な建物には、芸術の殿堂に対する19世紀前半のヨーロッパの伝統的な考え方が反映されています。オペラホールは音響的に優れており、観客は世界一流のオペラや、バレエ、各種コンサートを楽しむことができます。ラトビア国立オペラ・バレエ劇団は、古典的かつロマンティックなオペラやバレエの持つ伝統的な価値観を尊重する一方で、現代的な舞台芸術にも積極的に取り組んでいます。



14 — アール・ヌーヴォー建築群

Alberta,
Elizabetes iela

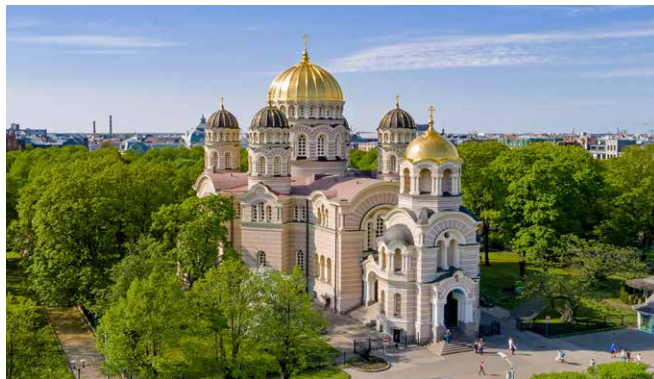
20世紀初頭にヨーロッパに浸透した新たな芸術様式は、ここリーガで特に広まり、表現を深めていきました。リーガでは1898年～1915年までが、アール・ヌーヴォー期とされます。その発展は、リーガの歴史にかつてない経済的繁栄の時期と重なりました。この時期には、リーガ中心部の建物の約三分の一がこの様式で建設され、リーガはヨーロッパでも有数のアール・ヌーヴォー建築の街となったのです。この様式の著名な建物の多くが、エリザベテス通り(Elizabetes iela)とアルベルタ通り(Alberta iela)周辺にあります。リーガ中心部の他の多くのエリアでも壮大な建物を見ることができます。ラトビア出身の有名なアール・ヌーヴォー様式の建築家には、コンスタンティーン・ペークシェーンズ (Konstantīns Pēkšēns)、ミハイルス・エイゼンシュテインス (Mihails Eizenšteins) やエイゼン・ラウベ (Eižens Laube) などがあります。



15 — ラトビア国立美術館

Jaņa Rozentāla
laukums 1

バルト三国で初めて美術館としてのニーズに合わせて、1905年に建設された建物です。ラトビア国立美術館の展示は、18世紀半ばから現代までのラトビア美術の歴史を知る上で重要な洞察を与えてくれます。主に20世紀の美術の発展に焦点が当てられています。この美術館のコレクションは、ラトビアやバルト諸国、そしてロシアの画家や彫刻家による52000点以上の作品で構成されています。2016年には大規模な修復作業と地下増築工事が行われました。また、この美術館は文化・教育センターとして、定期的に美術展や、教育活動、そして文化行事も開催しています。



16 — 救世主生誕大聖堂

Brīvības
bulvāris 23

救世主生誕大聖堂はリーガ最大の正教会です。教会の内装は非常に豪華かつ芸術的な豊かさがあり、壁は初期キリスト教の装飾が施された、ビザンティン様式の壁画で飾られています。ソ連占領時代、この大聖堂はプラネトリウムとカフェに姿を変えていましたが、2000年に再奉納され、再び正教会の定期礼拝が行われる聖なる建物として象徴的な存在となりました。



17 — ベルグス商店街

📍 Kr. Barona ielaとMarijas ielaの間のElizabetes iela

エレガントなベルグス商店街 (Berga Bazārs) は歴史的な商店街で、歩行者用道路との複合施設でもあります。起業家クリスタプス・ベルグスによって1887年～1900年に建設されました。この街区は、市内で最初の燃料ポンプや最初の下水道・上水道など、いくつかの革新的技術によって、短期間のうちに市の重要な一角を占めるようになりました。ベルグス商店街を訪れる人は、多くの小さなブティックでの買い物や、地元の人のお気に入りのレストランやカフェ、都心の静かな憩いの場の散策を楽しむことができます。



18 — リーガ中央市場

リーガ中央市場は、ヨーロッパで最大かつ最古の市場の一つです。食品市場のニーズの高まりに合わせて、2つの歴史的な飛行船（ツェッペリン）格納庫の跡地に、5つの棟が作られました。1930年以降、来場者の受入をはじめと、ヨーロッパで最も近代化的かつ大規模な市場として知られるようになりました。現在、リーガ中央市場は非常にカラフルで、地元の人にも観光客にも常に人気があります。地元の生産者による幅広い商品のラインナップと、歴史的な雰囲気、そして味や音が、市場を訪れる皆様を楽しませる特別な空間を作り出しています。



撮影: Reinis Hofmanis

19 — ラトビア国立図書館

📍 Mūkusalas iela 3

旧市街の反対側、ダウガワ川左岸には、ラトビアで最も重要な文化的・科学的建造物のひとつであるラトビア国立図書館の新館が建っています。その外観の表現には、ラトビアの有名な戯曲『黄金の馬』への言及やメタファーが含まれており、ガラスの山や象徴的な光の城が描かれています。この国立図書館では、テーマ毎に分かれた読書室を訪れることができます。書籍や、定期刊行物、そして音響・映像の中には非常に貴重なものもあります。この図書館は、従来の図書館機能に加え、文化情報センターの役割も担っており、会議や、フェスティバル、さまざまなテーマの展示会が開催されています。



20 — アーゲンスカルンス市場

📍 Nometņu iela 64

1898年にオープンしたアーゲンスカルンス市場は、この近隣で最大かつ最古の市場で、国定重要文化財に指定されています。この市場の歴史的バビリオンは、2018年から2022年にかけて大規模な改修工事が行われました。改装の間もその歴史的な特徴は保たれ続け、内装は本来の威厳を取り戻しました。リニューアルオープンした建物の1階では、農家や家族規模の生産者が、新鮮な野菜や、ベリー類、果物、乳製品、肉類、その他多くの美味しくてユニークな商品を来場者に提供しています。2階では、市場の雰囲気の中で出来立ての食事を楽しんだり、お酒を飲んだりすることができます。



21 — 俵島

俵島 (Ķīpsala) は、ズンダ運河とダウガワ川の間に位置しています。島の面積は約200ヘクタールで、長さは2.7キロ、幅は500メートルです。歴史的に、この島の住民の日常は、主に海とダウガワ川にかかわりがあるものでした。第二次世界大戦中、何十人もの命を救ったジャニス・リプケ (Žanis Lipke) もかつてこの島に住んでいました。ジャニス・リプケ記念館 (Mazais Balasta dambis 8) は俵島の狭い通りの間に隠れるように建っています。この記念館は、戦時中に救出されたユダヤ人が身を隠した環境を象徴的に再現しています。この禁欲的な木造建築物は、まるで役目を終えて陸に引き揚げられ、ひっくり返された渡し船を髣髴させます。



22 — カルンツィエマ街区

📍 Kalnciema iela 35, 37

魅力的なカルンツィエマ街区は、パールダウガワというダウガワ川左岸にあります。カルンツィエマ通り (Kalnciema iela) とメルンシル通り (Melnstila iela) の交差点にあるこの街区の改修された木造建築群は、後期ヨーロッパ古典主義の19世紀木造建築の遺産です。この街区の木造建築の改修は、2001年に民間主導で始まりました。現在では、小さなリング園のある中庭を囲む5つの復元された木造建築を見学したり、ギャラリーで美術展を楽しんだり、ワイン・カフェでのんびり午後を過したりすることができます。土曜日のカルンツィエマ街区の市場の他、美術展、家族・子ども向け行事やワークショップが定期的に開催されており、夏には野外音楽演奏会も開かれます。



23 — リーガ動物園

📍 Meža prospekts 1

リーガ動物園は、1912年に開園しました。この動物園は、市内で最も緑豊かなキーシェゼルス湖畔の松林地帯、森林公園を意味するメジャバルクス区 (Mežaparks) にあります。この動物園には、さまざまな大陸からやってきた3000頭以上の動物が暮らしています。通年営業しており、家族で休日を過ごすには最適な場所です。この動物園は、訪れるたびに何らかの驚きや新しい発見があるでしょう。夏は理想的なレジャーやピクニックの場となり、冬にはリーガ動物園「冬の夜」が開催されます。

リーガ観光情報センター (Rīgas Tūrisma informācijas centrs)

Rātslaukums 6、電話番号: + 371 67037900

営業時間: 9:00 ~ 17:00

travel@riga.lv

リーガ投資観光局 (Rīgas investīciju un tūrisma aģentūra)

LiveRiga.com/visit

写真:
ラトビア投資開発庁観光部およびリーガ投資観光局のアーカイブより

2026年10月

LiveRiga.com/visit

